

## 業況回復に温度差あり！製造業・建設業・サービス業は回復するも、小売業は大幅に悪化！

—2021年4月～6月期 中小企業景況調査報告書概要—

日銀が7月1日に発表した6月の企業短期経済観測調査（短観）によると、企業の景況感を示す業況判断指数（D・I）は、大企業・製造業がプラス14となり、3月の前回調査より9ポイント上昇した。新型コロナウイルスのワクチン接種の進展などで幅広い業種の景況感が上向き、4四半期連続で改善している。大企業・非製造業はプラス1で、前回調査と比べて2ポイント改善した。プラス圏に浮上するのは2020年3月調査以来5四半期ぶりのことである。テレワークの普及などにもとまらず、通信や情報サービスなどで大幅なプラスが続く一方、宿泊、飲食サービスなどの対個人サービスは依然として厳しい状況となっている。中小企業の業況判断指数は、製造業が6ポイント改善しマイナス7、非製造業は2ポイント改善しマイナス9となった。中小企業においても製造業と非製造業とでは回復度合いに差が出た。また、資源高によるコスト増の影響を受けやすく大企業に比べ回復が遅れている。

3か月後の先行きの見通し（2021年9月予測）は、大企業・製造業がプラス13と今期より1ポイントの悪化を見込む。世界で新型コロナウイルスの感染再拡大のリスクがくすぶり、先行きに慎重な姿勢がのぞく。非製造業はプラス3と今期より2ポイントの上昇を見込む。宿泊・飲食や対個人サービスの改善期待が強くなっている。中小企業では製造業が今期よりも1ポイント改善しマイナス6と予測されるが、非製造業は3ポイント悪化しマイナス12を予測しており、製造業と非製造業とでは回復度合いに大きな差がでると見込まれる。

内閣府が2021年6月24日に発表した6月の月例経済報告において、「景気は新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さが見られる。」との総括判断を示し、これまでの判断を据え置きした。項目別では「住宅建設」が賃貸マンションの増加により「概ね横ばい」から「底堅い動き」に上方修正されたが、それ以外の項目の判断は据え置かれた。景気の先行きについては、「感染の動向が内外経済に与える影響に十分注意する必要がある」としている。

商工会地域の景況調査においては、今期（2021年4月～6月）の業況に関するD・I値は、製造業が、前期のマイナス34.3から11.0ポイント改善しマイナス23.3、建設業はマイナス24.0から15.7ポイント改善しマイナス8.3、サービス業はマイナス56.2から17.4ポイント改善してマイナス38.8と、いずれも二桁以上の改善を示している。しかし、小売業だけはマイナス21.0から22.3ポイントと大幅に悪化しマイナス43.3となっている。

来期（2021年7月～9月期）の業況予測については、今期実績で大幅に悪化した小売業が14.7ポイント改善させマイナス28.6を予測し、サービス業も3.5ポイント改善しマイナス35.3を予測している。一方、製造業は0.8ポイントと小幅ながら悪化しマイナス24.1を予測、建設業においては今期実績の改善幅を大きく上回る25.0ポイント悪化しマイナス33.3を予測している。

（中小企業診断士 橋本大輔）

### 業界天気動向図

項目	売上				採算（経常利益）				資金繰り			
	2020	2021	2020	2021	2020	2021	2020	2021	2020	2021	2020	2021
年 月 業種	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4
	〳	〳	〳	〳	〳	〳	〳	〳	〳	〳	〳	〳
	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3	6
	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
製造業												
建設業												
小売業												
サービス業												

各項目については次により表示した。

区分	増加	やや増加	横ばい	やや減少	減少	大幅に減少
	好転	やや好転		やや悪化	悪化	非常に悪化
D I 値（前年同期比）	20.1～	5.1～20.0	5.0～△5.0	△5.1～△20.0	△20.1～△35.0	△35.1～
表示	快晴	晴れ	曇り	小雨	雨	豪雨

### 今期直面している経営上の問題点

（数値の左は前期構成比、右は当期構成比を記す）

業種	1位		2位		3位					
製造業	1位		2位		3位					
1位にあげる問題点	需要の停滞		生産設備の不足・老朽化		原材料価格の上昇、製品（加工）単価の低下、上昇難					
前期 今期	18.2	24.1	27.3	13.8	—	10.3				
建設業	1位		2位		4位					
1位にあげる問題点	民間需要の停滞		材料価格の上昇、従業員の確保難		取引条件の悪化、官公需要の停滞					
前期 今期	14.3	21.7	9.5	17.4	—	13.0				
小売業	1位		2位		3位		5位			
1位にあげる問題点	消費者ニーズの変化		需要の停滞		購買力の他地域への流出、その他		同業者の進出			
前期 今期	10.5	20.5	18.4	17.9	—	12.8	7.9	10.3		
サービス業	1位		2位		3位		4位		5位	
1位にあげる問題点	需要の停滞		利用者ニーズの変化、		その他		店舗施設の狭隘・老朽化		人件費以外の経費の増加、従業員の確保難、材料等仕入単価の上昇	
前期 今期	40.9	28.6	15.9	24.5	18.2	14.3	6.8	12.2	—	6.1